

その他の医療保健業における動作の反動無理な動作災害の死傷災害発生事例（2017年）

2017 年 発生 月	時間	死傷災害発生事例	年 齢	労 働 者 規 模
1	6~7	ご利用者様の居室にて起床介助をしていた際に、ご利用者様が動かれ転倒されそうになったのを支えた結果、腰に激痛がはしり負傷した。	60 ~ 29	10 ~ 29
1	11~ 12	当院エレベーター前にて、昼食準備のため、2名で、配膳車2台を受け取り、1人1台で運び、エレベーター扉前で2台連なって待機していた。本人は後方配膳車の前側に立ち、他職員は前方配膳車の前側に立つ。扉が開くと他部署職員と台車が乗っていたので、出してもらうスペースを確保する為に、前にいた他職員が声をかけずに配膳車を後方へ押したところ、2台の配膳車に挟まれそうになった当職員は、とっさに両方の配膳車を手で押したが、自分の配膳車を握っていた左手に激痛がはしり、骨折した。	51 ~ 99	50 ~ 99
3	9~10	事務所に届いた30箱の重い荷物を、事務所前道路に止めてある配送車から事務所まで複数名で運び入れた。床から持ち上げ自分の机上に置こうとしたとき、重いので振り子のように勢いをつけて右から左へ荷物を持ち上げて置いた際、左の腰を捻り、左腰上部に筋肉痛のような痛みを感じた。腰に痛みが発生し（腰に熱を持ったような感じ）、右手のしびれや発汗もあり、お辞儀や身体を捻じることができなかった。帰宅後、歩行困難で階段の昇降ができなくなり、痛みも激しくなり救急搬送された。	46 ~ 99	50 ~ 99
3	16~17	事業場の所在地において介護職員として勤務を始め、利用者を車いすやベッドから移乗させる作業を1日平均10回程度行っていたところ、強い痛みを感じはじめた。	25 ~ 99	50 ~ 99

4	16~ 17	移乗介助の研修時、上司の指示のもと、ベッドの上で様々な姿勢をとる練習をしており、骨盤を前傾させるような姿勢をとっていたところ、痛みが徐々に強くなった。（腰椎ヘルニア既往歴あり）	22	500 ～ 999
5	13~ 14	患者様の歯のクリーニングの補助のため、バキュームを持っている際に患者様の口が大きく開かず、口が開くように押さえていた。その状態が長時間続いた後、左手指の付け根や手の平、甲に痛みが出てきた。その後は痛くなったり、良くなったりを繰り返していたが、左手をかばっていたせいか痛みのなかった右手も痛みだし、手根管症候群末梢神経障害と診断される。	29	10 ～ 29
5	17~ 18	整骨院において患者の臀部分を施術中、左腕の肘を用いて患部に体重をのせた際に左肩に電気が走った様な強い痛みを感じた。	22	50 ～ 99
5	17~ 18	下膳をしている時に、右側にずれようと右足を出した時に右足に電気が走るような痛みを感じた。早退したが痛みが酷くなり、右膝内側半月板断裂および右膝窩筋損傷だと判明した。	63	50 ～ 99
6	18~ 19	利用者用食堂の入口で、利用者を誘導中に、後ろを横切った利用者が転倒しそうになったので、後手で支えようとしたが支え切れず、腰を捻ってしまった。	39	100 ～ 299
7	16~17	利用者さんをマンションに送り届けた後、マンションから駐車場に降りる際、段差（2段）の1段目を踏み外して左足を捻り負傷した。	50	10 ～ 29
7	16~17	デイケアを利用されている方を自宅へ夕方送って行く。立位困難の方で常時車椅子を利用している。自室へお連れし、ベッドの右側に車椅子をつけ、両腕で抱きかかえてベッドに上げる。その時背中を軽くひねった。すぐには痛みはなかったが後日動くのが厳しい状況になった。	70	100 ～ 299
10	17~ 18	台風による強風で屋上の鉄板屋根（148cm×289cm）がずれて穴があいた状態になり、6階の機械室に雨が吹き込んだ。そのため、職員5人で、この鉄板を元に戻した際に激痛で動けない状態になった。	55	10 ～ 29

10	17~ 18	台風による強風で屋上の鉄板屋根（148cm×289cm）がずれて穴があいた状態になり、6階の機械室に雨が吹き込んでしまった。そのため、職員5人で、この鉄板を元にもどした際に腰と股関節を痛めた。	55	10 ~ 29
11	8~9	お客様宅で食事介助を行う際に、椅子に座っているお客様に対し、スタッフ用の椅子はない為、テーブル横で立膝をついて、食事介助を行っていた。右膝に重心をかけた時に強い痛みが走り、その後、立位、歩行、屈伸等の動作を行うも激しい痛みがあった。右膝の曲げ伸ばしが出来ず、右足を引きずっての歩行になったので、当日にクリニックを受診した。	48	10 ~ 29
11	17~ 18	重度障害者のホームで支援業務中、利用者が玄関から外に飛び出し玄関横で寝そべったまま起き上がろうとしないので起こしてあげるために、同僚の支援員が上半身を持ち、被災者が足を持ち上げた時に、利用者が力を入れたのでその勢いで、被災者が体勢を崩してしまい利用者側に倒れ込んだ。すぐに湿布を貼り応急処置をして、その日は終了時刻まで仕事をした。その後痛みが治まらないため後日に受診した。	69	10 ~ 29
11	9~ 10	特別養護老人ホーム内での介護業務中、トイレ介助時に、屈んだ際、左膝に痛みがはしった。その後、入力介助時に入居者の足を洗う際、再度左膝に痛みがはしった。痛みが止まらないので、後日、病院を受診した。左膝外側半月損傷（疑い）と診断を受けた。	32	50 ~ 99
12	19~20	トイレ誘導時、入居者（男性・56kg）の脇をはさみ抱きかかえ、立ち上がってもらう際に右腕に痛みがはしった。	48	50 ~ 99

出典：[https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen\\_pgm/SHISYO\\_FND.aspx](https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx)(職場のあんぜんサイト)

Return to：[https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206\\_09.html](https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_09.html)